

全道一斉山のトイレデー・18年間を振り返る

山のトイレを考える会
事務局長 仲俣善雄

1. 活動の目的

私たちの活動の目的は北海道の山岳環境の改善です。登山者のし尿汚染の無い綺麗な山にすることです。そのために登山者に守ってほしい「山のトイレマナー5カ条」を定めました。

- 山に入る前にはトイレへ行こう！ ●できるだけトイレで用を足そう！
- トイレにゴミは捨てないで！ ●使用済みの紙は必ず持ち帰ろう！
- 携帯トイレも使ってみよう！

当会設立（2000年）の次の年に岩村和彦代表（当時副代表）の発案で「全道一斉山のトイレデー」と称して山のトイレマナーの啓発活動が開始されました。

2. 啓発活動の内容

山のトイレデーは2001年から毎年、9月の第一日曜日に実施してきました。

全道各地の登山口で、山のトイレを考える会の幟を立てて、登山者に啓発ツールである「山のトイレマナーガイド」「山のトイレマップ」「山のトイレマナー袋」などを配布して、山のトイレマナーを呼びかけました。特にティッシュ（トイレ紙）は持ち帰って欲しいことを伝え、ゴミを拾う清掃登山も併せて行いました。

(1) 啓発ツール

2003年までは山のトイレマナーも記述した白黒版「トイレマップ（大雪・十勝編）」を使用しました。また、登山口や山域のトイレの有無を一覧表にした「北海道の登山口トイレ情報」も配布しました。2004年には念願だったカラー版「山のトイレマナーガイド」、2013年には同じくカラー版「山のトイレマップ」を作成、毎年内容を更新して現在に至っています。2006年にはティッシュの持ち帰りを呼びかける「山のトイレマナー袋」を（株）ムッシュ様に提案、無償で製作、長年に亘って提供していただきました。



マナーガイド



山のトイレマップ



山のトイレマナー袋

(2) 活動の流れ

活動への募集案内は、①当会会員、②北海道の山メーリングリスト（HYML：[参考1]参照）の会員、③山岳団体や行政等に案内チラシの送付とメールにより行いました。当会の事務局運営委員は殆どHYMLの会員です。HYML会員の山のトイレ問題に対する関心も高いので、山のトイレデーへの参加者が多く心強い応援者でした。

活動終了後、速やかに当会事務局に活動模様の写真とともに参加者数や活動内容、活動の感想などの実施報告書をメールで提出してもらいました。

毎年活動に参加してくれる人、1回だけ参加する人など様々です。特に初めての人は登山者に対してどう対応するのか不安を抱き、その対応スクリプトをレクチャーしました。



旭岳トイレデー (2007年)



富良野岳トイレデー (2009年)



樽前山トイレデー (2015年)



十勝岳トイレデー (2015年)

3. 利尻山でも18年間続いた

「利尻山＝携帯トイレの山」であることは全国に知られており、携帯トイレ利用の先進地です。利尻山の携帯トイレ導入についてのたまかな経緯です。

- ・2000年：携帯トイレの無料配布、回収ボックス設置
- ・2001年：テント型ブース設置
- ・2002年：樹脂製の携帯トイレブースの導入
- ・2006年：携帯トイレを有料化（1セット400円）
- ・2007年：環境省が木造小屋式の固定式携帯トイレブースを設置

利尻山でのトイレデーは2001年から毎年実施されてきました。第1回目の参加者は3名

でしたが、利尻山を愛する有志である「山のトイレを考える会利尻グループ」「利尻礼文サロベツパークボランティアの会」の呼びかけで参加者が徐々に増え、毎年15名を超える参加者により活動が行われてきました。

利尻山の活動が私たちの励みにもなり、トイレデーも途切れることなく継続して実施できたと思っています。



利尻山トイレデー（2009年）



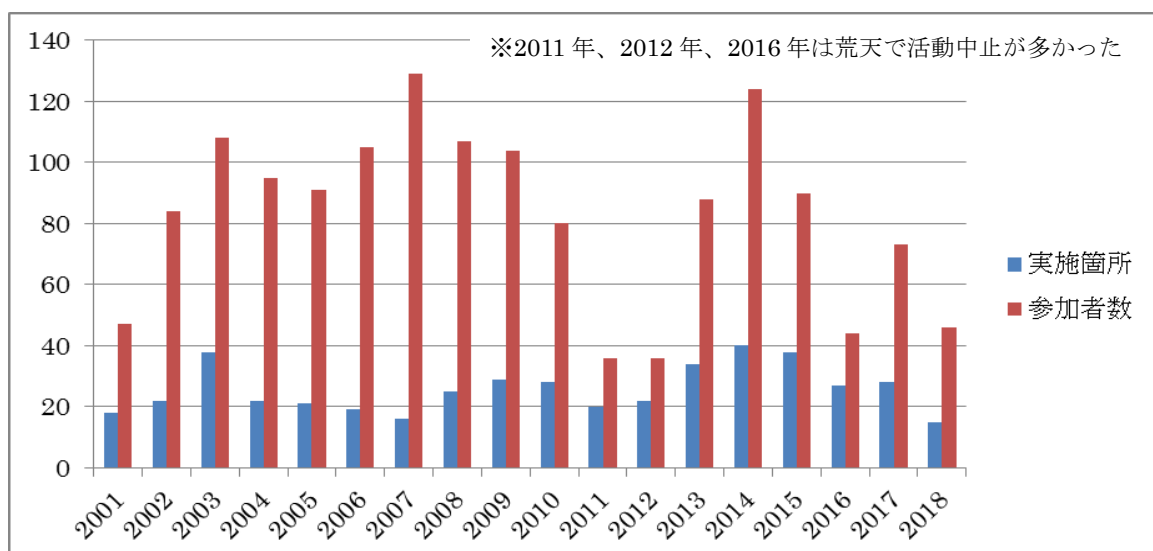
利尻山トイレデー（2018年）

4. マンネリ化、それでも続けた

私も毎年参加していますが、登山者の皆さん好意的で「携帯トイレを持っていますよ」「トイレ紙は持ち帰っていますよ」など嬉しい声が増えるのを実感してきました。

しかし、長年実施しているとマンネリ化も感じるようになりました。参加者も固定し、札幌近郊の山で実施することが多く、広がりが無くなってきました。それでも新しく協力したいという人もいて義務のように思いながらも続けてきたのが実情です。

5. 参加者の年度別状況



(図1) 山のトイレデー・実施箇所と参加者数の年度別状況

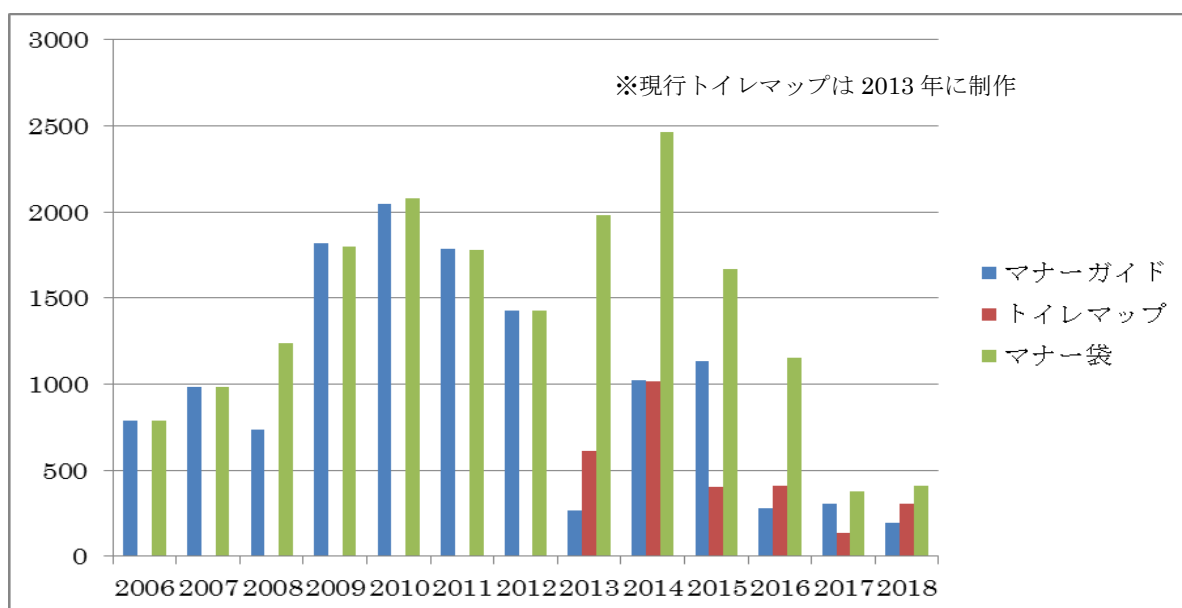
2011年、2012年、2016年のトイレデー当日は天候が悪く、中止の団体が多くあり実施箇所、参加者数とも少ない結果となりました。参加者数の年平均は82名、延べ実施箇所は462箇所でした。

6. 現行啓発ツールの配布数

2006年から2018まで山のトイレデーでの配布総数は次のとおりです。

- ・山のトイレマナーガイド 12,798部
- ・山のトイレマップ 2,887部
- ・山のトイレマナー袋 18,151部

啓発ツールの年度別配布状況は（図2）のとおりです。



（図2）山のトイレデー・啓発ツールの年度別配布状況

また（有）風の便り工房の佐藤文彦氏のご協力により、大雪山国立公園にあるロープウェイ駅舎、ヒグマ情報センター、ビジターセンター、黒岳石室、白雲岳避難小屋等にマナー袋（2008年～2018年）やマナーガイド（2009年～2012年）を置いていただき、多くの登山者に配布していただきました。そのご尽力に感謝いたします。

7. 印象に残る活動報告ピックアップ

18年間の活動報告では、活動内容、参加した感想など多く寄せられました。その中から特に印象に残った報告を【参考2】として最後に掲載させていただきました。

8. 2018年で最終とした

次の理由で2018年山のトイレデーを最終とすることにしました。

- (1) 2018年7月10日「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」が大雪山国立公園連絡協議会と北海道の山岳18団体と共同で発表された。
- (2) 携帯トイレを所持している人、ティッシュを持ち帰っている人も多くなり、2000年の当会設立時から比べ、格段に登山者の山トイレマナーがよくなった。

9. 成果はどうだったか

18年間にトイレマナーを呼びかけ、啓発ツールを配布した登山者は、ほんの一部の人にすぎません。インターネットを使った広報と比べると効率が悪い方法ですが、直接登山者に接し、生の意見を聞き、また参加者の意見を伝え、肌で感じるコミュニケーションは貴重な体験でした。当会の活動の本気度も伝わる活動だったと思います。

スタート時は携帯トイレについて全く知らない人も多かったです、今はかなりの人が所持しており、実際に使用している人も増えており隔世の感があります。

2001年7月のトムラウシ南沼野営地でのアンケート調査では宿泊者52名のうち、携帯トイレ所持者は当会会員2名の4%でした。しかし、2018年の「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」のアンケート調査では93%（114テント・代表者記入）と高率でした。

これは当会の活動のほか環境省や北海道、市町村の自治体そして山岳団体等が長年に亘って広報し、環境整備に努めた成果だと思えます。

10. おわりに

2018年度で山のトイレデーの活動を最終としました。今後は各地の山開き、山岳会等で開催する登山会、行政の各種イベント等、いろいろな機会を捉えて、啓発ツールを配布し、マナーを呼びかけていきます。長年に亘ってご支援いただいた皆さまに心から感謝いたします。

18年間の山のトイレデーの活動報告は当会のホームページに全て掲載されています。

(以上)

[参考1]

HYML（北海道の山メーリングリスト）

北海道の山の情報交換を目的としたML（メーリングリスト）で1999年12月発足。現在の登録会員は800名を超える。道内はもちろん全国の北海道の山愛好家が登録している。有志がMLを管理し、山岳会のように会長もいないし、会費も無い。定例懇親会も盛んで200回以上となり顔の見えるMLとなっている。会員同士で登る山行も多い。「北海道スノーハイキング」「北海道雪山ガイド」を出版、登山道整備や雪崩講習会、山スキー講習会の開催など活発に活動している。

[参考2]

印象に残る活動報告をピックアップしました

（トムラウシ山）

- ・下山してくる登山者より話を聞き、アンケートを書いてもらったのですが、頂上付近がひどい臭いで、何の臭いかと話し合いました。「尿尿の臭いとは知らなかった。何とかしなければ・・・」
「登山道脇にも排便のあとがあったので不快だった」と言っていました。50人面接中、携帯トイレを持っていた登山者は一人だけで、まだまだ携帯トイレの認識が低いと感じました
(2001年)

（斜里岳）

- ・登山者から携帯トイレをもらった事はあるが使っていない。使い方がわからない。使用后持っ

て帰るのが心配。道岳連研修で配っていたが使った人はいないのではないか。利尻山では使用後途中で捨てる人がいるそうなので、それが心配。大雪山でもらっても使える場所がない。入山料をとるべき。山中のテント場ではトイレが必要。タンクをそのままヘリなどで下ろせるトイレがいいと思う。山のトイレ問題についてはほとんどの人が問題を感じている。携帯トイレについての興味、関心は高いが、使い方や回収について不安を持つ人が多いとの意見があった

(2001年)

(黒岳)

- ・ロープウェイ駅舎のトイレに携帯トイレを捨てないよとの掲示あり。今年も放置されていたらしい(写真家の市根井先生発見)。登山者の多くは好意的。トイレを作って欲しいとの意見が多い。携帯トイレを持っていても、使ったことはないという人も多い(2001年)

(旭岳)

- ・登山者には、非常に好意的に受け止めてもらえたようだ。携帯トイレの名前は徐々に認知されているのか、実物に興味があるという人が結構いた。ビジターセンターで渡してもらった携帯トイレは、山に登る人に配るつもりであったが、下山してきた人にも関心の高そうな人には配ってみた。70個位はさばいた。私としては、携帯トイレをどんなものか知ってもらう良い機会になったのではないかと考えている。それが実際使えるかどうかや、旭岳をピストンする人が携帯トイレを使う必要があるかは別にして、これに用を足すのか・・・(マジ?)ということを考えるきっかけになったであろう。ただ、回収はキチンとされるのか、少々不安だった

(2001年)

(空沼岳)

- ・殆どの人が山のトイレ問題に関心を持っており、アンケートにも快く協力してくれた。美瑛富士避難小屋と南沼にはトイレが欲しいと言う人が何人もいた。羅臼・二つ池のキャンプ場もティッシュの花だと言う人もいた。利尻は携帯トイレ、回収箱、トイレブースを評価する人もいた。携帯トイレを使っていると言う女性がいた。空沼岳登山口にトイレを設置するには、費用がどの位かかるかと聞かれたが答えることができなかった(2001年)

(羅臼岳)

- ・羅臼岳山頂を踏んだ後、羅臼平に幟を立てて周辺の使用済みティッシュの回収と登山者への署名活動を開始。テント場の三峰側を中心に82箇所の紙と故意に隠したと思われるビール瓶やガスカートリッジ、テントのフライなど回収。登山者は署名に快く応じてくれ、携帯トイレ持参者が結構いた。また、羅臼平にもトイレが必要との声が多い。分かっていたが銀冷水や弥三吉水周辺の陰にはトイレ紙やゴミ多く全て回収(2005年)

(利尻山)

- ・参加申込は23名というこれまでにない手応え!初回のトイレデー参加者が3名だったことを考えると、このトイレデーが徐々に多くの人に浸透してきたのだなあ実感できたことはとてもうれしいことでした。また来年も、地元や利尻山のことを考えてくれている周辺地域の方々とトイレデーを活用していきたいと考えております(2006年)
- ・登山口に会の幟を立て清掃登山を実施。ティッシュ痕35、携帯トイレの投げ捨て1を回収し処理。長官山の埋設ゴミの搬出。ゴミ袋大12袋のゴミを回収(2008年)
- ・登山口に会の幟を立て清掃登山を実施。ティッシュ痕35、携帯トイレの投げ捨て1を回収し処理。長官山の埋設ゴミの搬出。ゴミ袋大12袋のゴミを回収。最近では登山者のマナーが向上してきたとの認識があったので、参加者一同、かなり落胆・・・。地道な呼びかけが必要との認

識を新たに（2009年）

- ・登山口に会の幟を立て清掃登山を実施。ティッシュ痕60、携帯トイレの投げ捨て8個回収、その他のゴミは少数。長官山の埋設ゴミ担ぎ下ろしは今回で終了（2012年）
- ・ティッシュ痕26と少ないことに参加者一同驚く。携帯トイレの投げ捨ても発見されなかった（2013年）
- ・ゴミは少なめであるが、22のティッシュ痕の他、ブースへの直接排便など3件が確認された。所持率調査は114名のうち110名から聞き取りを行い、97名が所持し、率は88.2%であった。何年もPRしているのにトイレブースに直接してしまう人がいるなんて、ショックでした。今日は100人以上が登っていて、それもまたビックリです（2018年）

（富良野岳）

- ・マナーガイドは配布した全ての登山者が好意的に受け取ってくれた。「昨年十勝でもやっていたね」「利尻岳で携帯トイレを買って使いましたよ」など活動の効果が現れ、又配布時多くの方から労いの言葉を頂いた（2008年）

（ニセコアンヌプリ）

- ・皆さん、好意的に話を聞いてくださいました。登山者ひとりひとりに求められていることですからやはり同じ登山者の立場でひとりひとりと話ができるこの活動が一番効果的であると思っています（2010年）

（美瑛富士避難小屋）

- ・避難小屋周辺のゴミ・トイレ紙を回収。紙は43箇所、ウンコ跡は15箇所確認。途中の登山道にも紙1箇所。トイレ紙は小屋入り口の反対側に集中してある（2010年）
 - ・雨とガスの中、美瑛富士避難小屋周辺の濡れたティッシュを81箇所回収。丹念に捜せばもっとあったと思います（2011年）
 - ・美瑛富士への登山者は少なく2名の配布で終わる。資材担ぎ揚げの後、小屋周辺を清掃。66か所でトイレ紙を回収。ここは這松の陰を使えるので携帯トイレの使用を是非お願いしたい（2013年）
 - ・小屋周辺の清掃では新しいトイレ紙3か所と現物1か所、ほかゴミが数個あったけでした。当日下山途中で遇った登山者を入れると15名が小屋に泊まった模様。宿泊者のほぼ全員が携帯トイレを所持。本州からの登山者も持参していました。登山道にはゴミなし（2015年）
- #### **（手稲山）**
- ・マナーガイド、マップ、マナー袋を20名の登山者に配布。その際マナーガイドのトイレ紙などの写真を見せて説明する。悲惨な状況を知った全員が持ち帰りを約束してくれた。中にはトムラウシ南沼の状況を最近見てきた人も（2018年）